

青年部通信

事務局 佐々木善久



2月22日、青年部は中弘南黒地区農協青年部交流会に参加しました。相馬村・つがる弘前・津軽みらいの3農協の青年部合わせて75名の盟友が参加し、さくら野で開催されたボウリング大会が開催では、熱い試合が繰り広げられました。

1ゲーム目は、久しぶりのボウリングということもあり、思うようにスコアが伸びない部員続出！優勝が懸かっているからこそ一投一投が真剣でした。ストライクや



久しぶりのボウリングに緊張

スベアが出た際は、みんなで大盛り上がりです。一番の盛り上がりを見せていた当JA青年部の所にはスコアが気になるのか、他地区の青年部員が席を超えやって来る場面も。

ガッツポーズやハイタッチはもちろん、中には悔しそうな表情が入り混じり、最後まで目が離せない展開となりました。

ボウリング大会終了後は、パークホテルに移動し、表彰式と懇親会が行われました。試合を振り返



入賞を目指した熱い戦い

りながらもまずは「JA相馬村青年部」と呼ばれるのを期待するも、呼ばれるのは津軽みらいや、つがる弘前の青年部員ばかり…。しかし、我ら当JA青年部は、今年は一味違いました。なんと、2名が入賞しましたのです。そして入賞者で景品を決めるくじ引きを行った結果、なんとなんと、1等の商品を見事ゲット！ 喜ぶ姿に私も嬉しくなりました。最後に、みんなで集合写真を撮影し、無事閉会となりましたが、ボウリングから懇親会まで、終始盛り上がりを見せた交流会となりました。

景品ゲット!!

熱い戦いとなったボウリング大会でした。スコアは秘密ですが、林崎樹さんが賞を取ることができました。中身はT-falの鍋セット!! これからの食卓に大活躍ですね。



今年も1年がんばりましょう!

地域おこし協力隊 活動記 Vol.97



前日に雪が降り、当日は快晴。天気にも恵まれすぎ～、神がかってる～。

こんにちは。彼女に愛車「サンバー」を事故られ、最近ブルーな気持ちになっている穂坂です。ことあるごとに「今年の冬は冬じゃない」という声を聞きますが、運転には気を付けないといけないですね。

生活するうえで雪が少なくて助かっています。が、なきやないで困ったのが「スキー大会」です。大会前日に雪が降り、なんとか開催することができました。スキー経験者が多く、ハイレベルな大会になっていました。ソリや雪上綱引きなどのレクリエーションもあって、大人も子どもも大盛り上がりイベントになって



ミニ炭俵づくりワークショップは大好評。参加者は、ばっちゃんの(難解な!?)津軽弁での説明を聞きながら頑張っていました。

いました。

もう一つ、雪がなくて困ったのが「沢田ろうそくまつり」です。まつり自体は諸事情があり中止となりましたが、参拜に来る人のために参道整備・おもてなし等を行いました。

朝早くから、沢田の町会員、沢田ろうそくまつり実行委員、弘前大学の学生、一般ボランティアなどが集まり、参道の準備をしました。相馬ハンタークラブ特製のマタギ鍋や成岩商店の甘酒がふるまわれたり、沢田のばっちゃんの山菜やミニ炭俵が売られたり、登山囃子が演奏されたり：まつりではないものの、大いに賑わっていました。

周知のこととは思いますが、「スキー大会」を主催する相馬地区体育協会、「沢



一般参拜で、協力隊OG鹿内さん、石田さん、OBの米山さんが来ました。いまま相馬の“協力者”です。

田ろうそくまつり」を企画・運営する実行委員会はメンバーの後継者不足に悩んでいます。ただ、相馬地区全体の人口が減るなかで、各種団体の担い手が不足するのは自明の理であります。後継者・担い手の確保は急務ですが、その前に組織体制の見直し、イベントや行事の規模・あり方の見直しが必要だと思えます。人がいないなら、いないのやり方があると思うのです。時代は令和、さらに「コロナ禍」を経て変容した社会や人々の価値観に合わせていく工夫も必要だと思つています。相馬の大切な行事やイベントを今後継続していくために、「変えたくないものは何なのか、変えられるものは何なのか、変えなければならぬものは何なのか」を本気で考える時期にあると思えます。

(*) 相馬地区公式HP (<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/soma/>)

